

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立九条塔南小学校 】

1 実践テーマ	I・II III IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	4年1組…23名，4年2組…21名，4年3組…1名 教員…3名 合計 48名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	障がい者スポーツ選手を招いて、講演を聴いたり競技の実技体験をしたりする。それらを通して、オリンピック・パラリンピックについて知り、身近に感じることで、障がいのある人に対して、また、共生していくことについての理解を深めることができるようにする。
5 取組内容	<input type="checkbox"/> 事前学習 総合的な学習の時間「みんなにやさしいまち」という単元において、障がいのある方や高齢者の方についての学習を進めてきた。 ①「まち」に住む様々な方々について知る ②自分たちが調べていこうとする課題を設定 ③課題を解決するための体験や情報収集 （インターネットや本、体験活動等） <input type="checkbox"/> 当日の学習 ①はじめの挨拶，講師と選手の紹介 ②講師の方からのお話 ・車いすの仕組みや操作方法 ・車いすバスケットボールについて ③車いす体験 ・車いすに乗ったり，操作してみたりする。（方向変換・Uターン等の操作，リレー等） ④車いすパスゲーム体験 ・選手のデモンストレーション



- ・車いすでのパス、キャッチ、シュート、ゲーム



⑤選手の方からのお話

- ・車いすバスケットボール選手になるきっかけ
- ・日常生活や選手としての生活
- ・子ども達に伝えたいこと

⑥終わりの言葉、花束贈呈

- ・子どもの感想発表
- ・講師・選手の方々へ感謝の言葉と花束贈呈



□事後学習

体験したことや調べてわかったことを、ポスターセッションやプレゼン発表等の方法で発表し、交流をする。

6 主な成果

- 障がいのある方から実生活や社会生活をどのように考えて送っているのかといった話を直接聞かせていただくことにより、共生社会の大切さについて考えることができた。
- 障がい者スポーツ（車いすバスケットボール）について知ることができ、パラリンピックについても身近に感じることができた。
- 障がいの有無に関わらず、全ての人に対してやさしい町・やさしい社会づくりの必要性について考えることができた。
- スポーツの価値について考えることができた。

7実践において工夫した点（事業の特色）

- 4年生なので、バスケットゴールにシュートが届かない等、体力面で、本来の「車いすバスケットボール」をすることは難しいと考え、パスゲーム用のゴール（低く、リングが大きいもの）を使ってゲームを行った。
- 車いす体験を行ってから講師や選手から話を聞くのではなく、体験の前後に話を聞くことで、体験して感じたことを確認しながら話を聞いたり考えたりすることができた。

8主な課題等

- 学習は、2時間程度で適切だったと思うが、授業が終わってから、子ども達が選手のところに行き話をしてしまっている様子が見られた。選手のご都合、また新型コロナウイルス感染拡大防止の面から難しい面もあるのだが、給食交流など、気軽に対話ができる時間がもう少しあると良かったのではないかと思います。

	<p>○事前の段取りが大変である。担任からの実施希望の日時と講師の先生及び選手のご都合、車いすの使用可能日時をすり合わせなければいけなく、この段取りが大変であると感じている。ただ、活動している子どもたちは大変意欲的に取り組む様子が見られたので、可能であれば、今後も体験させてやりたい取組であると感じている。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>次年度の4年生にも、今年度同様、総合的な学習の時間において福祉をテーマとした学習を進める予定である。車いすバスケットボール体験や特別養護老人ホームの入所者や職員の方からのお話を聞くなど、できるだけ多くの体験的な活動を取り入れ、学習を進めていきたい。</p>